

テーマ1「関西の放射線関連施設の現状と将来」

①

ONSA の活動と新たな取り組み

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会

専務理事 奥田 修一

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会 (ONSA) は、放射線利用技術の向上と産業振興を目的として、関西を中心に40年にわたり活動が続けてきた。これまで主に連携してきた放射線利用施設の停止を受けて、2022年度より、多くの大学、研究機関や民間企業など個人や団体の放射線に関連する活動に幅広く貢献するために、新しい取り組みを開始した。この現状と将来について報告す

ONSA の活動と新たな取組み

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会

奥田 修一

1. はじめに

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会 (ONSA) は、放射線利用技術の向上と産業振興を目的として、関西を中心に 40 年にわたり活動を続けている。この放射線利用総合シンポジウムは第 33 回目となり毎年継続して主催している。これまで主に連携してきた放射線利用施設が利用を制限し停止となるのに伴い、2022 年度より活動の方針を見直して、多くの大学、研究機関や民間企業など個人や団体の放射線に関連する活動に幅広く貢献することとした。さらに 2024 年度から新しい取り組みを開始した。このシンポジウムを開催するにあたり、主催団体である ONSA のこれまでの経緯と新たな活動方針について報告する。

2. ONSA の活動とその経緯

ONSA の組織と活動の経緯は以下のとおりである。2024 年度より、後述の新たな方針に従い、活動を行うことになった。なおこれらの詳細は、ONSA ニュース [1] と本資料集の「3. ONSA の活動とこれから」 [2] に記載されている。

ONSA の組織と活動に関する経緯：

1959 年 大型放射線研究施設を有する大阪府立放射線中央研究所 (大放研) 設立

1984 年 大放研を活用した産学共同の研究開発を進めるため、大阪府と関係企業の発意により大阪ニュークリアサイエンス協会 (ONSA) 発足

1988 年 ONSA の大阪府による社団法人としての認可 (2013 年一般社団法人に移行)

1990 年 大放研が大阪府立大学に統合

2022 年 放射線利用促進のための ONSA への委託 (コバルト 60 ガンマ線照射等施設の利用・活用のための PR 活動) 打切り

ONSA の活動範囲を幅広く設定し、方針を見直し

2024 年 ONSA は新たな方針のもとでの活動を開始

このような変遷の中で、ONSA は従来から一貫して、次のような基本方針に基づいて活動を行っている。

ONSA の基本方針：放射線利用に関係する者と団体等が相互に連携して、放射線利用技術の向上と産業の振興を図り、国際化に貢献することを目的として活動を行う。

ONSA の主な活動は次のとおりである。

1. 放射線に関する科学技術情報の収集及び提供
2. 放射線に関する知識の普及
3. 委託調査・研究などの受け入れ
4. 放射線関係団体、行政との連携活動
5. 放射線利用に関する優れた研究・活動の顕彰と支援
6. 技術相談
7. その他の活動

3. ONSA の新たな活動方針とそのとりまとめの経緯

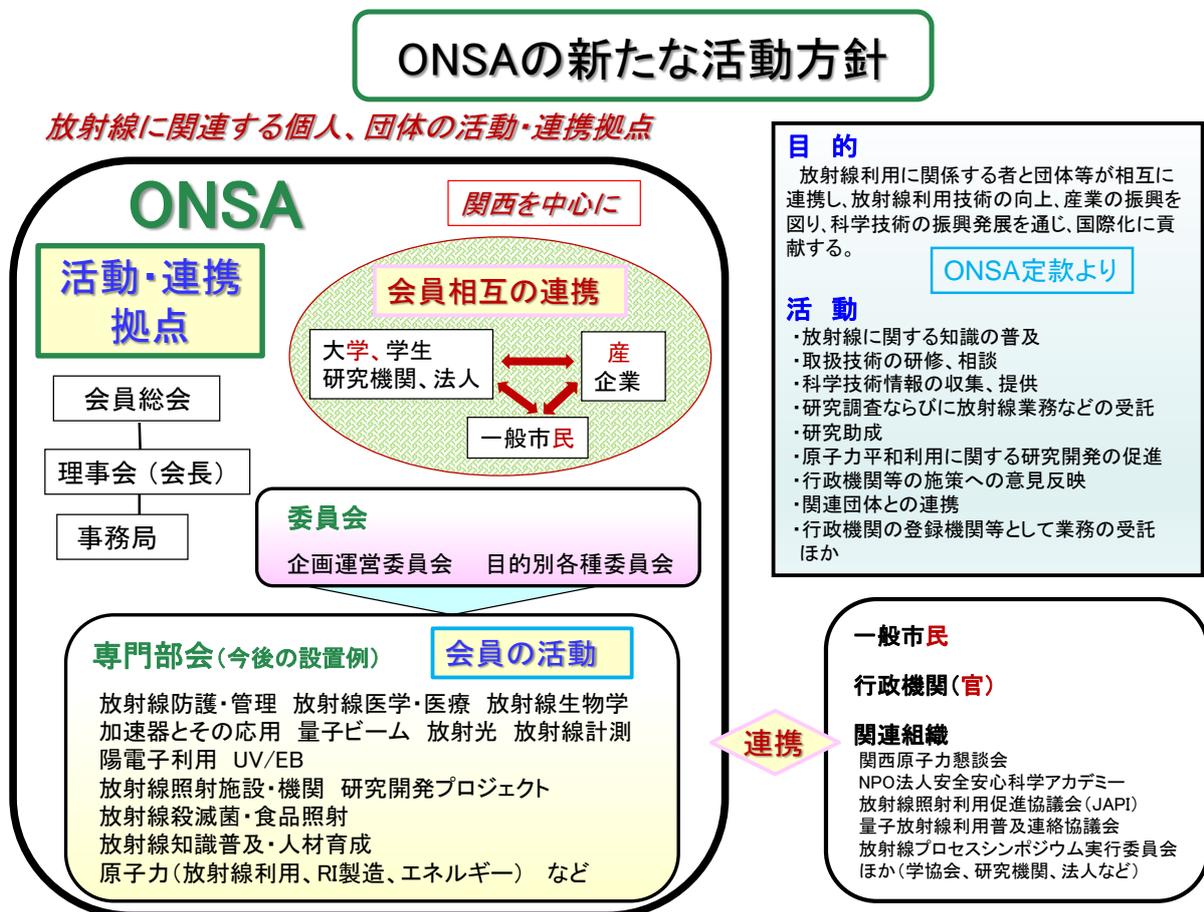
ONSA は、2022 年度から活動方針を見直した。その後、将来の ONSA のあり方について、ONSA 会員、外部の大学、法人等の多くの関係者にお話しをうかがい、寄せられたご意見や期待に基づいて、まとめられた「ONSA の新たな活動方針」を 2024 年度から実行に移すことになった。この概要は次のとおりであり、これを図に示す。

基本方針：

これまでの方針に従い、放射線利用技術の向上による科学技術、産業の振興を図る。

新たな活動方針：

- 放射線に関連する活動拠点とすること
「専門部会」を新たに設け、放射線に係る多様な分野で会員の自主的な活動を推し進め、関西を中心とする活動拠点とする。
- 放射線に関連する連携拠点とすること
ONSA 内外で産学官民相互の連携を推し進め、関西を中心とする連携拠点とする。



図：ONSA の新たな活動方針

「新たな活動方針」の主な点は、従来定款には記載されていたが、設置されていなかった多様な専門部会を設けることである。専門部会は、少人数の会員でも設置することができ、ONSA

が支援することで、その専門分野の活動を自由に行うことができる。この特徴を活かして個人会員を増やし、広範な連携を実現することが目標である。

今年度は、まず「ガンマ線照射利用部会」が発足し、この部会の主催で「関西におけるガンマ線利用施設の現状と将来」をテーマに第 81 回放射線科学研究会を開催した[3]。この結果、学術研究や試験のために利用できるガンマ線照射利用施設の維持・継続の困難さやいくつかの施設の利用停止が明らかになった。この状況を受けて、部会のメンバーである（株）コーガアイソトープから、保有施設をこれら基礎研究へも利用拡大することについて提案があるなど、この分野の将来に貢献できる大きな成果が得られている。またその他の専門部会の設立と準備が進められている。この状況は、今後 ONSA ニュースやホームページ[3]でそのつど報告する。

4. おわりに

科学技術のさまざまな分野で、放射線利用の重要性が増す中、近年特に、放射線利用施設や関連組織の継続が困難になっている。この現状において、ONSA は今後の展開を見据えて新たな活動方針を設定し、その実現に向けて歩み出した。

放射線の利用に関心をお持ちの皆様、会員や関係者の皆様には、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

参考文献・資料

- [1] “2024 年度からの ONSA の新しい活動方針”、ONSA ニュース No. 34-1(2024.7) p.3-4.
- [2] “ONSA の活動とこれから”、2024 年度一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会第 33 回放射線利用総合シンポジウム資料集、第 3 章（2025）.
- [3] ONSA ホームページ、<http://onsa.g.dgdg.jp/>.

講演者略歴



奥田 修一 (おくだ しゅういち)

所 属 一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会 専務理事
住 所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 3-3-27 サンエイビル 4F
連 絡 先 TEL/FAX : 06-6282-3350/3351、E-mail:manager-onsa@osaka.nifty.jp
学 職 歴 1980 年 大阪大学工学研究科原子力工学専攻博士後期課程修了
1980-1987 年 大阪府立放射線中央研究所
1987-2002 年 大阪大学産業科学研究所附属放射線実験所
2002-2017 年 大阪府立大学工学研究科 教授 (現、名誉教授)
2019 年- 現職 現在に至る
研究・分野 量子線材料科学、電子加速器と放射光源開発、放射線安全管理学

